

ちっと しょうしいろも おもしろー ことばが
ちよつと はずかしいけど おもしろい ことばが

こってっつぺ!

とてもいっぱい!

もっと長岡を知り、
もっと愛するための

長岡弁講座

なじらね!?
ことしもはなびみに
いこーねかね!?

そーらね、ばか あっちえろも
ねんねん ごーぎになつてるすけね

そうしょーて!
ごっつお たがいていこーれ!



花火の妖精 ナッチちゃん

河村正美

公立大学法人長岡造形大学 副理事長

長岡弁講座

目 次

- 1 はじめに 消えゆく長岡弁 生き残る長岡弁
- 2 方言区画 東部方言－東海東山方言－越後方言－中越方言－長岡弁
- 3 アクセント 頭高・中高アクセントに特徴
- 4 文 法 長岡弁は語尾が「命」
- 5 語 彙 長岡弁の特徴をもつ主な言葉
- 6 あとがき 生活や文化の記憶を伝える「方言」

<参考文献・資料>



水道タンク（旧中島浄水場配水塔）

消えゆく長岡弁、生き残る長岡弁

昭和30年代の長岡。祖父母や父母、周りの人々がふつうに話していた言葉、それはまさに「長岡弁」そのものだった。セピア色したその時代の中で、長岡弁のシャワーを浴びながら私は言葉を覚え、語彙を増やしていったのだった。

今も地元の仲間うちの会話で、おどけ半分に持ち出すディープな長岡弁。とたんに場を和ませる不思議な力がある。圧倒的に標準語に囲まれた暮らしをしても、「こころの言葉」はいまだに長岡弁であるような気がする。

全国各地の生活や文化、価値観、情報手段などが画一化され、世代交代も進んでいく中で、「地域方言」（以下「方言」という）が確実に姿を消し、代わって「社会方言」の一つである「世代方言」がどんどん増殖しているように見える。

しかしその一方で、方言をテレビ番組のタイトルやキャッチコピー、商品、公共施設の名前などに用いて、親近感や独自性をアピールしようというような動きも目につく。どこか「感情をもった」方言の魅力がそこにあり、そのような形で使われることによって、一部の方言は時代や世代を超えてしたたかに生き残ろうとしている。

インターネットで探索してみると、さまざまな方言のコミュニティや方言収集の記録などを見出すことができる。「これ知ってる？」と無邪気に楽しんでいるものから、文化人類学・言語学的な考察を加えたものまでいろいろである。

言うまでもなく、「言葉」は人類がもち得た宝物である。長岡で生を受け、これまでの人生69年間のうちの65年間を長岡で過ごし、そして今ふるさとの大学に勤務する私も、長岡の風土や生活習慣、社会規範などと自分自身との関わりの記憶をたどりながら地域の言語文化である「長岡弁」に改めてアプローチしてみようと思う。

「消えゆく長岡弁、生き残る長岡弁」に思いを馳せながら…



神田小学校の前で遊ぶ再従兄と筆者(右)
昭和32年(1957年)

まずは、試しにこの文から…

おこここ、はかいったねかねえ。そうせば、おめさん、へえしんでもいいれ。

もちろん、墓参りに行った人にあんたもう死んでいいよと言っているわけではない。(笑)

- ・おこここ=あらまあ
- ・はか(抄)がいく(標準語の比較的古い言い方)=仕事が順調に進む
- ・そうせば=そうしたら
- ・おめさん=あなた
- ・へえ=もう
- ・しんでもいいれ=しなくてもいいよ

つまり

あらまあ、仕事が進んだわねえ。そうしたら、あなたもうしなくてもいいわよ。

ということである。

このように言葉が訛ることによってまったく違う意味に聞こえるのが方言の特徴であり、おもしろさでもある。長岡弁と言われる言葉の中には、「**夕^{ゆう}さり(さる)**」「**夜^よさり(さる)**」のように、今では「枕草子」などの古典や詩歌・俳句の中でしか見られないような古語が生き残っているものもある。

また、「柿が**よ^よんでる**(熟す)」「卵が**みよ^{みよ}ける**(孵化する)」「**飴が泣^ないてる**(溶けてベタベタする)」などのように、どこか越後人・長岡人の「こころ」が感じられる表現も多く根づいている。

ふだんは標準語を使うことが多い人でも、「冷たい」ではなく「**しゃっこい**」、「すごいね」ではなく「**ごーぎらねー**」のように、とっさの素直な感情表現の場面では、染み付いた方言が顔を出すことがある。

長岡弁を知り、楽しんでもらうことで、長岡人の「こころ」に近づくことなればうれしく思う。



東部方言—東海東山方言—越後方言—中越方言—長岡弁

日本の方言の地域区分は方言区画と呼ばれる。音韻、アクセント、文法などの諸要素を総合して区分されるが、学者によってさまざまな区分が提唱されてきた。

この中で、日本における方言学の基礎を築いたといわれる国語学者・東条操(1884~1966)による方言区画では、長岡弁は、本土方言の中の東部方言—東海・東山方言—越後方言—中越方言—長岡弁という分類に位置する。



- 東海東山方言
- 越後方言 (新潟県越後)
 - 北越方言 (阿賀野川以北、東蒲原郡)
 - 中越方言 (越後中部)
 - ・新潟弁 (阿賀野川以北を除く)
 - ・長岡弁 (長岡市を中心とする地域)
 - ・中越南部方言 (魚沼地方)
 - ・奥信濃方言 (長野県栄村)
 - 西越方言 (越後西部)
 - ・上越弁 (上越地方)
 - ・糸魚川弁 (糸魚川市、旧青海町を除く)
 - 秋山郷方言 (新潟県津南町、長野県栄村の秋山郷)
 - 長野・山梨・静岡 (ナヤシ) 方言
 - 北部伊豆諸島方言 (東京都伊豆諸島御蔵島以北)
 - 岐阜・愛知(ギア)方言(西日本方言に含める場合も)

東条操の方言区画
http://msystem.co.jp/images/blog/blog_dialect01_std03_large.jpg (一部修正)

頭高アクセントと中高アクセントに特徴

日本語のアクセントは、単語または文節ごとに音の高低の配置が決まっており、地域によってその配置の方言差が体系化されている。ただしその体系はとても複雑であるが、代表的なものに「東京式アクセント」と「京阪式アクセント」がある。一般的には長岡弁のアクセント体系は、「東京式アクセント」の中の「**外輪東京式アクセント**」という括りに分類される。※「外輪東京式」には、新潟県のほかに岩手県、長野県、静岡県、愛知県、鳥取県、島根県、大分県などの各一部が分類される。

●アクセントは、^{あたまだけ}起伏式(頭高型、^{なかだけ}中高型、^{おだけ}尾高型)と平板式に分類される

この観点から長岡弁にみられる共通語とのアクセントの違いがある主なものをあげると…

・頭高アクセントになるもの

- ・スズメ (雀) ツバメ (燕) ネズミ (鼠) **ウ**サギ (兎) クマ (熊) ススキ (薄)
- ・ポタン (釘) たまご (卵) くつ (靴) **ほう**ちょう (包丁) でんしゃ (電車)



・中高アクセントになるもの

- ・な**が**おか (長岡) ※標準語が単独の「長岡」においても「長岡京」の「ながおか」のように平板式に発音されるのに対して、地元では「長岡市」の場合は「ながおかし」と平板式に発音されるが、単独の「長岡」は、「伊豆長岡」の「な**が**おか」と同じ中高型アクセントで発音される。
- ・この**へ**ん (辺) パン**や** (パン屋) さん ほん**や** (本屋) さん

👉 **若者に広がるアクセントの平板化** 「クラブ」「ショップ」「ピアノ」といった外来語をはじめ、「かれし」「そもそも」といった言葉に至るまで、近年、若者（特に関東地域を中心とした）にアクセントの平板化が多く見られるようになってきている。また、「へんじゃね？」のように最初の1音（へ）が低く、そのあとのそれ以外の音は高く、最後の（ね？）はさらに高く発音して「賛同を促す表現」が生まれたりして、日本語のアクセントは混乱・流動化している。

長岡弁は語尾が「命」

長岡弁は、終助詞の「が、て、や、こて」などをはじめとして、助動詞・形容動詞の変形・短縮形の「ら、ろー」などが多用されることが大きな特徴の一つ。語尾をこれに変えるだけで、たちまち長岡弁らしくなる。

●が（一）、がーて、がーや<終助詞>

- ・そいがー？ これがタピオカてがー？ （そうなの？これがタピオカというものなんだね？） 疑問
- ・そいが、これがタピオカてがーて （そうだよ、これがタピオカというものなんだよ。） 断定
- ・何してがーて？ （何しているの？） 疑問
- ・勉強してるがーて （勉強しているんだよ） 主張
- ・何してがーて！ （何しているんだ！） 非難
- ・勉強してるがーて！ （勉強しているんだよ！） 逆切れ

「長岡の人は、がーがー言う」と言われるように、が（一）は長岡弁の特徴を表す言葉である。あらゆる文の語尾につけることが可能で、語調を整える終助詞として使われる。さらにがーの後に上記のて、や（主に男性）のほかに、疑問の意の場合にはけ、断定の場合にはれ、よ（主に女性）など、多彩な終助詞を付けて語調を強めることも多い。

肯定文では「～ですよ、～なんですよ」の意味が基本であるが、主張・非難・逆切れの場面で使われるなど、言い方の奥は深い。語尾を上げて疑問形として使われることも多い。また、断定の「が」の丁寧語として「がですて」などもある。

がーはがあと表すこともできるが、本稿では実際の発音に近づけてねえをねー、どうをどーというように、語尾においては、小文字の母音ではなく長音符号のーで表すことを基本として表記した。 ※言葉によって一部使い分けをした。

👉 「そいがー」は、あらゆる場面で使える万能語 現代の長岡で最も多く使われる長岡弁の一つが、相手の話に反応する場面でのそいがー。相槌を打つとき、驚いたとき、疑問を感じる時、同意をする時など、話を聞いたあとの第一声はそいがーで事足りる。日常会話で注意して聴いてみると、老若男女を問わずかなりの人が使っている。



●て、(い)や <終助詞>

- ・やろう**て**、やろう**(い)や** (やろうよ) **勧誘**
- ・あしたら**て**、あしたら**(い)や** (あしただよ) **断定、念押し**
- ・晴れる**て**、晴れる**(い)や** (晴れるよ) **予測、主張**

「おとこ言葉」と「おんな言葉」

標準語の「絶対そうだよ！」は

- ・おとこ言葉では、「絶対**そうらいや!**」
 - ・おんな言葉では、「絶対**そうらいねー!**」
- ※共通の言葉は、「絶対**そうらてー!**」

●ら (+て、こて) <断定の助動詞及び形容動詞の終止形の変形> + 終助詞

- ・あした日曜**ら?** (あした日曜?) **疑問**
 - ・日曜**らて** (日曜だよ) **断定、念押し**
 - ・そう**らこて** (そりゃそうだよ) **断定**
- ※さらに強調の終助詞**て**or**や**がつくことも
そう**らこて**や、そう**らこて**て

長岡弁「だ→ら」の法則

- ・いや**だ** ⇒ **やら**
- ・そう**だよ** ⇒ **そうらよ**
- ・こと**だから** ⇒ **ことらんだ**
- ・来る**だろう** ⇒ **来るろー**

文末ではないが、この「発音」に要注意!

長岡弁「え↔い」の法則

- ・えんぴつ → いんぴつ
- ・えちご → いちご = 越後? 苺?
- ・えぐち → いぐち = 江口? 井口?
- ・か**え**た → か**い**た = 変えた? 書いた?

●すけ <接続助詞・終助詞>

- ・しつこい**すけ** (しつこい**ので**) ・飲んだ**すけ** (飲んだ**ので**) **理由**
- ・もう別れる**すけ** (もう別れる**!**) **決意**

※私の叔母は「**イツ子**」という名だったが、本人も含めてみんなが明らかに「**エツコ**」と呼んでいた。

👉 「い」と「え」の問題は、単なる新潟県における逆転現象ではなく、古語の「ゐ」と「ゑ」が「い」と「え」に変化する過程での全国的な混乱とも関係しているという考察もある。

●ろー <助動詞>

- ・帰りに寄る**ろー** (帰りによる**だろう**) **推測** ※助動詞「だろう」の短縮形
- ・起き**ろー**と思ったが**ろも** (起き**よう**と思ったんだけど) **意思**

長岡弁の特徴をもつ主な語彙

言葉は「交流し、移動する」ものであるため、長岡地域だけで使われている(いた)という言葉は実はあまりない。この地域だけの方言かと思って調べてみると、意外にいろいろな地域で言われている(いた)と言うことが多い。標準語と同じ言葉で地域独特の使い方をしている場合でも、標準語での一つの意味として辞典に載っていることもある。このため一般的に「長岡弁」と言う場合には、地域限定に限らず「長岡地域で使われている(いた)方言」を指す。

その上で次のような基準を設け、「長岡弁の特徴をもつ主な語彙」を選び出した。

- 1 自分が子どものころに実際に使っていた言葉、あるいは今でも使っている言葉
- 2 自分自身は使っていないが、家族や周りの大人などが日常的に使っていて、意味がよくわかる言葉
- 3 地元で使われている(いた)方言のうち、できるだけ長岡市周辺地域や新潟県で特徴的に使われている(いた)言葉
- ※ 標準語の語尾の変化や発音のちょい訛りによると思われる方言で、言葉の意味が比較的理解しやすいものは除く。

★語彙の抽出作業を行ってみて…

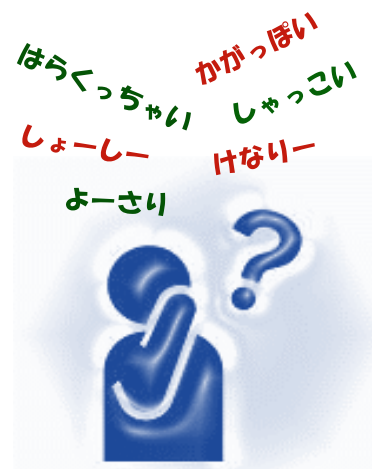
●これって、方言？ 標準語？ それとも古語？ と意外によくわかっていない言葉が多い

この主な原因は、今ではあまり使われない古い標準語や古語が少し訛った形でいまだに地方に住む主に高齢の人たちに残っている言葉（いわゆる「老人語」）の存在だ。方言のような、古い標準語のような、そのちょい訛りのような、なかなか判断がつかない言葉がとても多いのだ。

このため、「広辞苑」や「日本語大辞典」、「古語辞典」、「新潟県方言集成」などを調べたり、全国で使われている言葉かどうかをインターネットなどで確認するという作業をひたすら行った。

●ちょっとした違いによるバリエーションがとても多い

例えば「だりこっぺ」という言葉も、「だらこっぺ」「だるこっぺ」「だれこっぺ」「だりこっぱい」「だらこっぱい」…というふうに家族・集団・地域などの影響を受けて微妙に違うバージョンが無数に存在する。



語句	意味	説明・使い方・思い出
あおらあおら	青い顔して体調が悪そう、 ふらふらしているようす	「顔色が青い」と関係ありそうだが、はっきりした語源は不明。県内でも長岡、栃尾、上越地方の一部など限定的な地域で使われるようだ。
あたける	(子どもが) 騒ぐ、暴れる、 (髪や布団が) 乱れる	愛知(三河地方)等でも言うことから、藩主・牧野氏の三河から長岡への移封の際に持ち込まれた言葉の一つか!? ※「髪が乱れる」は上級編
アタン	トタン板	標準語の「トタン」は、ポルトガル語の tutanaga が語源。アタンは、「亜鉛(メッキに使用される) 単板」が語源と言われる。
あちさん	よその人、他人(幼児語)	「あちらさん」が語源か? (例) ほら、あちさんに笑われるすけ、やめれーて! ※幼いころにこの言葉を母に何度言われたことか!
あっちえ、あっちやい	暑い、熱い	いつもの夏なら「あつーい!」と言う妻も、令和5年の夏は「あっちやいねー!」を連発した。 ※反対語はさぶい、しゃっこい
あぶね(一)	邪魔だ、危ない	「あぶない」の訛りだが、長岡弁では「邪魔だ」の意味で使うことが割と多い。(例) おめさん、あぶねーて! みーねがね(見えないよ)
えーもち	分家	「家持ち」が、長岡弁「え↔い」の法則によって訛ったもの(例) あのしょ(人)は、えーもちに出たがらて
おごった、おーごんだ	大変だ、しまった!、へー	「おおごと(大事)だ」の訛り。それは「大変だ」というのが基本だが「へー、そーなの」という単なる相槌として使う場合もよくある。
おっぼしよる、おしよる	折る、へし折る	枝や棒、線香などの細長い物を折るときや手足の骨を折ったときなどに使う。ポキッ!と音がする感じの動作。 ※長野や博多等でも言う。
おんまける、おんまかす	こぼす、ぶちまける、捨てる	液体や粉を大量に捨てたり、撒き散らす感じの行為を言う。 ※群馬や神奈川などでも言う。
かがっぽい	まぶしい	「広辞苑」にも載っている「かかはゆし、かがはゆし」(輝かしく、まぶしい)に形容詞をつくる接尾語「ぽい」がついた口語的な表現? ちょっと優雅な感じも
かける	指名する、質問する	(例) また、あの先生にかけられてしまった ※学生時代に上京してはじめてこの言葉が東京では通じないことを知った!

語句	意味	説明・使い方・思い出
がながな	やせ細っているようす	ぼさぼさ（雪がひどく降るようす）、あおらあおら（体調が悪そうなようす）などと同様の反復の擬態語
きんぎょ(こき)	神経質(な人)、潔癖(な人)	(例) あ的那个人はきんぎょこきらすけ、面倒らてー ※こきは、～をこく(する)人の意で付ける。(嘘こき、のめしこき、しゃべっちょこき)
げっぼ	最後、最下位(の人)	(例) 一所懸命走ったがろも、やっぱりげっぼらったてー ※東日本のビリ、西日本のドベに相当する言葉
けなりー	うらやましい	「広辞苑」に「け(異)なり」があり、新古今和歌集や狂言の用例が載っている。ふつうとは違う→すぐれた→うらやましいとなるようだ。
ごーぎ	すごい、立派、ひどく、強引だ	標準語の「剛毅」や「豪気」がもとか？ ※ばか～と同じく、度を越えた過剰な様子を表すときにも使う。
ごーたれ	乱暴、強情ぱり、頑固、したたか	使う意味によって「業たれ」「剛たれ」「強たれ」等の漢字が連想される。たれ(垂れ)は、「悪いやつ」の意で付ける。(しょったれ、くそったれ)
こぐ	抜く、根元から抜き取る	(例) 畑で大根こいでくる ※「実」を採るのはもぐ
こしよる	こしらえる、作る	「こさえる」がもとか？ (例) おめさん、何こしよてがね？
ごそつき	慌て者、落ち着きのない人	「ごそつく」(ごそごそ音がする)がもとになった方言と思われる。(例) あんなごそつきに任せらんねー
こちょます	くすぐる	新潟県内ではこちょばすと言う所が多いようが、私の周りではこう言っていた。くすぐったいはこちょまっこい
ごったく	もてなしごと、人寄せごと	行事や冠婚葬祭などで人を寄せてもてなす用事があり、家の中が取り込んでいる状況 (例) 日曜日は嫁とりごったくでおおわらわらったて
(ら) こつつあ	だよ、ことだろう、～だろう	前にら(長岡弁「だ→らの法則」による「だ」の変化)が付くことが多い。(例) それじゃ、だめらこつつあ ※つあは、モーツァルトと同様のZ音

語句	意味	説明・使い方・思い出
ごっつお	ごちそう	「ごちそう」の訛り。三条市の「いい湯らてい」内にイタリアレストラン Gozzo Latte (ゴッツォラーテ) がある。
こって	とても(たくさん)、すごく	「新潟県方言集成」によると、長岡地域限定の方言のようだ。(例) こって すげー本稿タイトルに登場する こってっぺ は、 こって + いっぺ が短縮されたもの。
こびる、こびり	間食、おやつ	広辞苑に「小屋」が載っている。昔は全国的に使われた言葉らしく、netで加賀市に焼き菓子「 こびり 」を発見! 「地元の方言」と説明されている。
こんだ	今度、この次	(例) こんだ からいい子になる! ※叱られるといつもこう言って許してもらうが、「 こんだ とバケモンには会ったことがねー」の諺どおりに…
こんつあらばかち	これっぽっち	こんつあばか 、 こんばかち とも言う。
ごんぼ(一)	牛蒡(ごぼう)	撥音の ん が入る。※小学校の夏休みドリルにあった絵の付いたしりとりで「ごぼう」とは露知らず、次の「牛」につながらなかった苦〜い経験が…
さがねる	探す、捜す、尋ねる	「さがす」と「たずねる」の複合語という説も (例) よっぱら(いやになるほど) さがねた ろも、やっぱりねーかった
しかも	かなり、相当	(例) 「この畑に熊が出たんですって?」「ああ、 しかも ながながといた」「へー、 鹿も! 」※テレビのニュースでの実話と言われる定番ギャグ
しぬ	打撲で青あざができる	身体の一部を主語にして 死ぬ に例えた? 内出血で血が青く見えるのを血が 死んだ と表現したという説も (例) 転んで膝が しんで しまった!
しね しんな	しない、するな	(例) ばあちゃん! これでへえ しんでも いいれー、へえ しね ばいいて ※これは老いた母親を気遣う「やさしい息子」の言葉
しみわたり	凍った雪の上を歩くこと	凍 みた雪の上を 渡 り歩くこと。1月~2月の厳寒期に放射冷却で凍って固くなった雪の上を歩く しみわたり は、雪国の子どもが一番の楽しみだった。
しゃがん(さ)	左官	「さかん」の訛り。下に さ をつけると「左官屋さん」といった感じになる。※ほかに セメン屋 という言い方もあった。

語句	意味	説明・使い方・思い出
しゃっこい、しゃっけ	冷たい、冷やっこい	「ひやっこい」の訛り。江戸弁にも見られる言葉で、結構全国的に通じるが、気持ちとしては「これぞ雪国弁!」。しゃっけ!は悲鳴に近い。
しゃべっちょ(こき)	おしゃべりな人	ちょは~する人、こきは~こく(する)人の意。「よくしゃべる」という意だが、「言わなくていいことを口にする」というニュアンスもある。
じゃみる	泣きわめく、文句を言う	幼児が泣いて駄々をこねるときに使うが、大人が不満を言う場合にも使う。 (例) あの人がまたじゃみて大変だった!
しょーしい	恥ずかしい	「笑止」の転か? 「しおらしい」の同語源という説もある。 ※動詞はしょーしがる、恥ずかしがり屋はしょうしがり(や)
しょったれ、しょーたれ	だらしない、不潔	(例) しょーたれ、しゃれこき、惚れてがねー♪ ※だらしないくせにお洒落にばかり気をとられている妹を母がからかって歌うように言う言葉
しょてっばな	最初	「初手」+「はな(端)」の意か? 実際、「最初も最初」という感じで使われていた。(例) しょてっばなに釘を刺されてしまった!
じょんのび	ゆったり、のびのび(する)	(例) (風呂での第一声) あー、じょんのび、じょんのび ※県内にはじょんのびの湯、じょんのび館、じょんのび村など使用例が多数
じょんぎ、じゅんぎ	礼儀、仁義、義理	「仁義」が語源? 「付き合いの中で礼儀をつくす」というのが基本的な意 (例) わざわざ来てくんしたんだ、じょんぎ買いしたて
しんなんらづよい	ねばり強い、がまん強い	「しんなりづよい」の訛り。「弱そうに見えるが、意外に~」というニュアンスを含むことが多い。
ずくなし	不器用、能がない、鈍重	ずくは意欲や根気のこと ※日本海側に多く生育するタニウツギは、木の芯がしっかりとしていないことから、ずくなしという別名がある。
すなぶる	吸ってしゃぶる、なめる	「すいねぶる」の転。赤ちゃんがおっぱいを吸うときや指をしゃぶるようすなどを言う。カニや骨付き肉を食べているようすなどにも使う。
ずる	動く、滑るように移動する	(例) もうちょっと前にずってくれ! ※東京への修学旅行時に、長岡駅から汽車が走り出すと、ウキウキ気分の級友みんなは「ずったー!」

語句	意味	説明・使い方・思い出
せーふろ	風呂	「据え風呂」(大桶に竈を据え付けて湯を沸かす風呂)の訛り
せきさか、せーさか	せいぜい、精一杯	(例) いくら高くても1万円が せきさか らて
せつない、せつねー	つらい、(肉体が)痛い	精神的なことだけでなく、肉体に関して使うことも多い。(例) 腰が せつねー
そいが(一)(かね)	そうなんですか (相槌)	(例) そいがー 、そら良かったね!
〃 (け)?	そうなんですか? (疑問)	(例) えー? そいがけ? ほんとながー?
〃 (て、れ、よ、いや)	そういうことです(念押し)	(例) そいがー て、知らなかったが? 長岡の「越乃雪」って、日本三大銘菓の一つながーよ ※ そいが 、 そいが などとも言う。
〃 (て、れ、よ、いや)!	そうなんですよ! (断定)	(例) そいがいや! ほんとながいや!
ぞーせ	雑炊、おじや	「ぞうすい」という大して長くもない言葉でも圧縮してしまうのが、長岡弁の特徴の一つ ※女性や少し上品な人は、 おぞーせ と言う。
そろっと、よろっと	そろそろ、静かに	(例) そろっと 行ごーねか ※「そろそろ」の意は、「新潟県方言集成」に載っていないが、長岡地域では実際この意で使うことが多い。
そんま	すぐ(に)	「そのまま」の転か? (例) そんま 戻るっけん、 そんま そこられて
たいようし	模造紙	漢字では 大洋紙 。九州では 広用紙 、東海では B紙 と言う。
たがく、たがいる	持つ、携える	「たずさえる」の訛りか? (例) 落とさんよう、しっかり たがいて げよ! ※長岡弁ではさらに「え」と「い」の混乱が加わる。

語句	意味	説明・使い方・思い出
だ(一)すけー	だから、したがって	関西弁の～やさかいに相当する。(例) だーすけ 、言ったらー! ※女性は だんだー 、若者は だっけー と言うことが多い。
だっちもない(ねー)	しょうもない、つまらない、訳のわからない	「らち(埒)もない」が、長岡弁「だ→らの法則」の逆パターンも加わって訛ったか? ※「ほんとにあきれた」という感じで使う。
だてこき	おしゃれ(者)、気取り屋	(例) だてこき 男にへんなし女 ※やたら外見を飾りたてる男と女を揶揄して言う。同義の だてこき は主に男、 へんなし は主に女に使う。
たらかす	騙す、(子どもを)すかしなだめる	「たぶらかす」の訛り (例) 子どもに飴やっ、やっ たらかした
だり(ら、る)こっぺ(ぱい)	散らかる、やりっぱなし	「乱離骨灰」(らりこっぱい)の転という説が有力。※これも「だ」「ら」の混乱が加わった訛りか?
たれこ(っ)ち	たれそうだ、我慢できない	大・小便などが漏れそうな状態を言うが、比喻で「ものごとをやらずにはいられない気持ち」を表現するときにも使う。(上級編)
ちだらまっか	ちまみれで真っ赤	ひどい出血をした状態を言うが、比喻で「相手に徹底的に打ちのめされた」ときに自虐的に使う。(上級編)
ちょーろもーろ	戸惑い慌てふためく	(例) 渋谷駅がこって変わってしまった、 ちょーろもーろ した
ちょっこらちよい	簡単に、容易に	ちょっこらは、「少し、ちょっと」の意 (例) そう、 ちょっこらちよい とはできねーよ!
つあつあ、とっつあ	父親、おやじ、主人	ていねい語は、 とっつあま あるいはこれを略した つあま ※これもご とっつお 、～ らこっつあ と同様のZ音(za)
つづく	届く、達する、つながる	(例) もぐのは手の つづく 柿だけでいいよ、やっ と 足が つづく 深さでおっかねかった!、子どもたちが歩道を つづいて 歩いて行く
てんご(一)かく	あれこれとやり散らかす いたずらする	古語の「てんごう」に「悪さ、いたずら」の意があり、この訛りか? かく (搔く)は、もうぞ かく 、悪さ かく などと同様の使い方

語句	意味	説明・使い方
～してみたー	やっごらん、してみなさい	(例) まあ、いっけん (いいから)、食べて みたー ※「やってみればわかるよ、とにかくやってみろよ」と勧める感じで使う。
どいが (ーて、や、いや) ? or !	どうしたの? 何やってるの!	「新潟県方言集成」に載っていないが、今でもよく使われる長岡弁の代表格。「? = 疑問」か「! = 非難・怒り」の見分けは、言葉の強さと顔色で…
どーしゅーがー? or !	どうするの? どうするつもり!	長岡弁「が一言葉」 どうするがー のdeep訛り形。言い方による意味の違いは上記と同様。※これを言われて返事に困った時の言葉は、 どうしょば
どぶる	(足が) 潜る、埋まる	(例) 雪道で (足が) どぶった
なじら(ね、て)	どうですか、いかがですか	基本は How are you? の意。How do you like it? や Please の意もある。「なじらね」「5時です」は定番ジョーク。What time is it now? の意はない。
なじょ(ー)も	ぜひとも、どうぞ遠慮なく	(例) 「大根がいっぺことあるんだあ、なじらね?」「もらっててもいいかね?」「 なじょも 持ってがっしゃい!」 ※こっちも助かるのでという感じ
なす	返す、返済する	「新明解国語辞典」には、「済(な)すは、近畿以外の各地方言」とある。※古い諺に ~ 借るときの地蔵顔、 済す ときの閻魔顔 ~
なまら	おおよそ、そこそこ	新潟市では「とても」の意だが、長岡市では「中途半端」の意。※新潟お笑い集団NAMARAは「とても」の意。北海道でも言うが、新潟がルーツのようだ。
なんぎー	辛い、苦しい、体調が悪い	「なんぎ」(難儀) がもと。「ー」が付くと、身体のことをいう場合が多い。
～ねか	～(した、しよう)じゃないか	(例) だーすけ言った ねか 、そろっと (そろそろ) 行こー ねか
ねまる	座る、うずくまる	「奥の細道」で芭蕉が山形県尾花沢の養泉寺で読んだ句に ~涼しさを我宿にして ねまる 也~ ※九州では、ねまるは「腐る」の意
のめし(こき)	怠惰、ものぐさ、怠け者	(例) ばか足がきくにか。 のめしこき してんな ※子どもころに足で敷き布団を畳んでいるのを見られて言われた言葉

語句	意味	説明・使い方・思い出
のんのさま	太陽、月、神、仏（古い幼児語）	（例） のんのさま にお参りしたか？ ※幼児時期にご飯の前に必ず言われた言葉。「三つ子の魂百までも」で今も朝食前には必ず仏壇にお参りしている。
ばか（ばっか）～	とても、すごく、非常に	標準語「ばかに～」の略 （例） ばか うんめーて、そりゃ ばか いいねっか ※「越後のバカ言葉」と言われ、接頭語的に～を誇張する意で多用される。
～ばか（ばっか）	～ばかり、～くらい、～ほど	分量や状態、程度の「おおよそ」を表す助詞 ばかり の略 （例）3日 ばか 留守にした、大事な事が3つ ばか ある、そんげんちっと ばっか
はつめ	器用(な人)、利発(な人)	「発明」がもとか？ netには新潟県と石川県の人が方言として取り上げている。（例）おめさん、 はつめ らのう ※反対は もうてがね一、もうてなし
はばける	一杯に広がる、窮屈（そのためにはみ出す、破れる）	北海道～東北の方言。「はば」は「幅」か？「一杯に広がる」意とその結果「窮屈になる、喉につかえる」という両方の意が。長岡では後者の意が主
はらくっちえ	腹いっぱい	「はらくちい」（腹がきつい）という古い言葉がもとだという説もある。 はらくっちやい とも言う。山形や福島では はらくっち
はんばき(ぎ)ぬぎ	旅行などの慰労会・反省会	はんばき は脛巾(はばき) = すねに当てる布のこと。脚絆の一種で旅するときや山仕事に着けた。慰労会をすることで、 はんばき が脱げるとした。
ぶちやる	捨てる	新潟県のほか長野、山梨、群馬などでも使われ、 ぶしゃる など訛り方の変形も多い。※netで長野県の「 びちやるな! 」という看板の写真を発見!
ぶつかっ	伯仲している、どっちもどっち	（例）どっちも ぶつかっ らなー ※長岡地域限定の方言のようだが、正体不明。「ぶつ」と「かつ」が似たようなものかということかと探ってみたが…
ふったてる	持ち上げる、(直立に)起こす	（例）重たくて、とってもじゃないが ふったてらんね よ ※「持ち上がる」は ふったたる 、「持ち上がった」は ふったたった
ふつつく	くつつく、寄る、恋仲になる	「くつつく」の訛り （例）糊が手に ふつついた 、全員もっと前の人に ふつついて! 、あの二人は ふつついた みたいらて
ふつつ	いっぱい、満杯、大盛り	※同じ意の ひつつ がさらに訛った言葉か？ 長岡では「いっぱい」という意で、ほかにも こって 、 ばか 、 むつつら などが使われる。

語句	意味	説明・使い方・思い出
ふるしい	古い	「新しい」と同じ送り仮名で対になっていることもあり、標準語にもあるか思っていたが「広辞苑」には載っていない。古語の「古し」の訛りか？
ふるしき	風呂敷	「ふろしき」の訛り。「日本国語大辞典」には、用例に江戸時代の川柳に ふるしき 、そして落語にも 古敷 が登場することが載っている。
ふんごける	足で蹴り飛ばす	(例) ごーぎの寝相らなー、夜中に布団 ふっごけて ばっかりいたろー ※これも、子どものころにいつも言われていた言葉
へえー	もう	(例) へえー 終わったがー？ ※netで調べると長野や山梨などでも言うようだ。群馬、浜松、広島、岡山などでは、 はあー と言うらしい。
へんご	変だ、歪んでいる、不揃い	(例) 自分で髪切ったろも、左右 へんご らて ※見附などでは、 へんご ちよとも言うらしい。何かカワイイ感じも…
ほーらく	払い落す	(例) 花粉が服についてるとわりーすけ、よく ほーら いてから家に入れや ※服についた雪やほこりを払う、ござについた砂を払うという時に使う。
ぼっこす	壊す	「ぶちこわす」の訛り。「ぶちこわす → ぶっこわす → ぼっこわす → ぼっこす」という変化か？ ※「壊れた」は ぼっこ いた
ぼとぼとする	あくせくする、忙しくする	私は今でも普通に使っている。 ※「えっ、標準語らねーがー？ そうせば バタバタ する(忙しくする)は、なじらね？ どこにも載ってないって!？」
ほんこ	本番勝負、賭け勝負	ビー玉やパッチ・メンコをやる前の重要な取り決め。反対語は「うそっこ」 ※負けると、「今のは うそ こらよね!？」と見苦しい主張をする子もいた。
まき	一族、血縁、本家・分家	(例) あのしょ(人)はあそこんちの まき らて ※同一の本家から分かれた一族を指す。血縁関係の濃い田舎らしい言葉ではある。
まだら(る)っこい	遅くてじれったい	(例) おめさんの仕事、 まだら っこくてみてらんねー ※私は まだら っこしーと言っていた。佐渡では、 まどろ こしーと言うようだ。
みったくない(ねー)	みっともない見場が悪い	「みっともない」の訛りと思われるが、「見たくない」が原義とする主張もある。北海道から東北、北陸にかけて分布する。※もっと訛ると、 みたぐ ね

語句	意味	説明・使い方・思い出
みよける	孵化する、(小動物が) 生まれる	どこか情感のある言葉だが、私は「インキュベーター」「スタートアップ」といった起業に関する言葉に接すると、この みよける が頭に浮かぶ。
むだかる、みだかる	絡まる、もつれる	netで検索すると、特に「福井弁」に関する項目が多く、そっちがルーツ？糸やコードなどが絡まることをいうが、「髪がもつれる」ときにも使う。
むつつら	いっぱい、どっさり	ふつつ や こつ と同じ意味だが、この むつつら は、「そんなになくてもいいのに」のニュアンスが強いときに使われる感じがする。
めぐら	周り、あたり	「回る、廻る、巡る」がもとか？ (例) 家の めぐら じゅう、イチョウの落ち葉だらけらて
め(を)くいる	目を閉じる	目を閉じるときにしか使わないと思っていたが、同年代の友人の話では、 戸をくいる という使い方もあるようだ。
もうぐれる	もうろくする、ぼける、戸惑う、勘違いする	老人に使うイメージだが、若い人が勘違いしているような時にも「 もうぐれてんないや 」というように使う。いずれにしても、口の悪い人の言葉
もうぞ(一)	幼稚、愚か者、訳のわからないこと、寝言、たわ言	「妄想」がもとで、「寝言」をはじめとしていろいろな意味に使われるようになったらしい。動詞は もうぞこく 、 もうぞかく 、人は もうぞこき
もうてがね一	のろい、不器用、能力がない	「もうて」が「能力」といった意味ではないかと、各事典やnetなどであれこれ調べたが、類似する日本語は見当たらなかった。「 もう手がね一! 」
(腹が)もぎれる	腹が引きつるように痛い	腸がねじれるような、もぎ取られるような痛みを言う。語源は不明だが、「鍋の取っ手が挽(もぎ)れる＝ねじれて取れる」に近いような気がする。
もぐす	沈める、(中に) 潜らせる	「潜る、潜らせる」の訛りと思われる。水以外のものに対しても使う。(例) 寒いんだ、ちゃんと布団に手を もぐして 寝れや
もしかあんにゃ	次男 (もしかの長男)	「広辞苑」には「 若しか兄にゃ ＝次男 (新潟県)」とある。家族構成や跡取りのなどの話をしているときに言うことが多い。
もじける、もじる	恥ずかしがる、人見知りをする	(例) 後ろで もじけて ないで、ちゃんと挨拶しなさい! ※新潟県は、圧倒的にこういう子が多い。

語句	意味	説明・使い方・思い出
もりっこ	子守、子守の子(娘)	「子守娘」(こもりっこ)の省略形か？ (例) 娘夫婦が結婚式に出るすけ、もりっこを頼まれた
もんじゃくる	もんでくしゃくしゃにする	(例) その書類、よくもんじゃくってぶちゃってくれな ※シュレッターのない時代に上司に言われた言葉
もんでくる	文句をつけに行く(来る)	行く場合にも、来る場合にも使う。(例) あの件で家にもんでこらいたらどうしょば ※netには一切出てこない。長岡周辺限定の方言のようだ。
やっこい	柔らかい、軟らかい	しゃっこい系の訛り方。 ※「固い」「硬い」はかったい
やら(て、いや、いの)	嫌だ	長岡弁「だ→ら」の法則による訛り。言う相手や気持ちによって語尾がいろいろ変わる。(例) そんげんが(そんなの)、絶対にやらいや!
やれまか	無理やり、どうしても	(例) やれまかやらされたがーて
ゆーさり(る)	夕方、日暮れ、晩	「日本国語大辞典」のみに載っており、「夕去り」から派生する形で「夜去り」が生まれたとある。前夕(ぜんせき)の意味を指す地域もあるようだ。
よーさり(る)	夕方、日暮れ、晩	こちらは「広辞苑」にも載っている。※わが家では、「夕方」をゆーさり、「夜」をよーさりと言っていたが、必ずしもその区別はないようだ。
ゆきのけ、ゆきかき、ゆきおろし、ゆきほげ	除雪	雪のけ、雪かきは、雪が少ない所のイメージで、長岡ではあまり言わない。雪おろし、雪ほげは、どっさり積もった雪を掘って、放り投げるイメージ
ゆきおろしのかんなりさま	初冬に鳴り響く雷	(例) 雪下ろしのかんなりさまが来たなー ※「これが鳴ると、いよいよらなーと冬を迎える覚悟が決まる」と祖父は言っていた。
よーしてくらした	ありがとう	「よくしてくださいました」の訛り。心から感謝している気持ちが入った丁寧な言葉。子どもなどには、よーした、よしたよしたなどと言う。
よっぱら	充分、たくさん、うんざり、飽き飽き	(例) よっぱら食べさせてもらった、似たような番組ばっかでよっぱらになった ※「いっぱい」を「満足感」と「飽き飽き感」の両方の意で使う。

語句	意味	説明・使い方・思い出
よて ^①	手拭い、手拭き	「湯手」の訛りという説が有力。主に浴用の手ぬぐいのことを言うが、手拭きや顔洗いの手ぬぐいのことを言う場合もある。
よて ^②	得意、得手	「得手」の訛り (例) あの子は逆立ちが よてん がって
よばる	呼ぶ、大声で声を掛ける	「呼ばわる」(大声で言う、叫ぶ)が語源と「新潟県方言集成」にある。(例) はよ、父ちゃんも よばって こいや
よひかり	夜遅くまで起きている人 夜が冴えている人	「夜光り」が原義 (例) うちの子は よひかり の寝ぼこきで、困るてー
よむ	熟す、熟れる	「熟(う)む」の訛りか? (栗などが) 熟すと口が開くことから「笑む」の訛りという説もある。(例) この桃、まだ よんで ねーみでらて
ろも	~けれども	長岡弁「だ→らの法則」による「ども」の訛り。(例) しらべた ろも 、わからなかった
わきっちょ (たま)	脇、傍ら	(例) 心配しんでも、俺の わきっちょ に居ればいーて
わさ	悪さ、いたずら	(例) あの子は、 わさ ばっかかいてる ※ わさ を「する」ことを かく と言う。てんご かく 、もうぞ かく などと同様の使い方
わっか	輪	「輪」の俗な言い方。(意外だったが) 全国的にも使われる言葉のようだ。(例) お日さまに わっか がかかっているんだ、天気が悪なるろー
わんご	O脚、がにまた、いびつ	(例) この靴底の減り方じゃ、おめさんもだいぶ わんご らの一、その椅子ちっとばか わんご らねーか?
んな	お前	な(お前)に撥音の ん が頭に付いて、少し力が入った言い方。目下の人や仲間同士での呼び方に限られる。文句をいうときは、 んなやー となる。
んまそこ	すぐそこ	「新潟県方言集成」には、「寸間其処」(すんまそこ)が訛ったとある。(例) 田中さんちは、 んまそこ らいの

生活や文化の記憶を伝える「方言」

「長岡弁を訪ねる旅」は、駆け抜けていった「時」の追認にほかならない。記憶の底に埋もれていた一つひとつのシーンを想起していく過程で浮かび上がってきた長岡の「時代の景色」や「人々の思い」は、今とは隔世の感がある。しかしそれは、単に失われようとしている「懐かしい過去」というだけではなく、ふるさとでの生活や文化、規範などにまつわる「実体験の記憶」であり、今のふるさとや自分という存在を「照らし直してくれる記憶」であった。

特に「語彙」を選び出す過程では、スペースの限られた説明欄には書き込めなかったが、下記に一例をあげたように自分でも驚くほどありありと個々のシーンが脳裡に浮かんできた。その時の自分や一緒にいた人たちの心情と自然に同調できることも多かったし、今となって考えると…という思いが湧いてくることもあり、ことのほか「優しい時間」に浸ることができた。映画『ニュー・シネマ・パラダイス』のように……

がながな

1967年にビートルズの武道館公演があり、その翌年には18歳の「ミニスカートの女王」ツイッギーが来日して武道館でファッションショーを行った。祖父母、父母、妹といっしょに、当時流行っていた家具調テレビのニュース映像を食い入るように見ていたが、ツイッギーが画面に大写しになると、父が言った。「ばーか、**がながな**らねっか！」

ほーらく

雪の降りしきる夕方、すっかり身体が冷え、腹を空かして学校から帰ってきた私が玄関の戸を開けると、「ただいまー」と言う前に、その音を聞きつけた祖母の声が台所の方から聞こえてきた。「おー、けえって(帰って)来たなー！ 雪**ほーら**いて、はや入って来いや！ あったけーふかし芋があるろー」

しみわたり

放射冷却現象で**凍み**て固くなった雪の上を**渡り**歩いた、雪国っ子にとっては「しあわせMAX」の思い出が蘇る。周りに積もった雪の上を長ぐつで得意満面に歩き回り、時には「どぶって」、みんなで大笑い。スキーを履き、田畑を越えて遠出することも……。あたり一面、凍った雪粒が七色にキラキラ光り、「宝石を散りばめたような」雪国の朝の景色が広がる。



本稿は、当初、市外・県外からやってきた本学の教職員などを対象に、「時おり出くわす長岡弁」や今ではあまり聞くことはなくなった「味わいのある長岡弁」などを知ってもらい、少しでも長岡の人々とまちに親しみをもってほしいという思いから執筆し始めたものである。

しかし、長岡弁を現に使っていた、よく耳にしていたという人たちに語彙の収集や確認などを行っていくうちに、こうした長岡弁の現役世代や経験世代のためにこそ、本稿をまとめていく意味があるのではないかと思うようになった。

例えば、長岡弁の代表格「そいがー」のバリエーションを探ろうとすると、多くの人が実体験に基づいた個人・家族・地域・仲間などでの使い方や実体験の思い出を語ってくれる。共通するところも多いが、微妙に違うところもある。その人の年代、居住地、家族の出身地、職業などによって限りなく変化形が存在し、なかなか一筋縄ではいかない。

だが、着目すべきは、それを語る人の表情や熱量だ。熱く、多弁に、そして何よりも楽しそうに、その言葉にまつわる自分や家族、仲間内とのエピソードを語ってくれ、話はどんどん盛り上がっていく。

その源泉が「懐かしさ」であるのは間違いないが、それだけではないようだ。長岡弁という「**言葉の記憶**」は、その時代の長岡の自然や文化、社会規範などが織りなす「**風土の記憶**」であり、その中で存在した自分の「**人生の記憶**」でもあった。その「記憶」は、長岡のまちとそこで暮らしてきた一人ひとりの中に染み込み、今につながっている。それを「懐かしく」振り返ることができるのであれば、それはとても幸せなことなのである。

長岡弁は、この先、急速に失われていくに違いない。それはおそらく仕方のないことであろう。

五木寛之は、著書『人間の覚悟』の中で「**人は、失うとわかったものしか愛せない**」と述べているが、かつて当たり前存在していた方言は「人々の日常の生活の歴史」であり、エポックメイキングな出来事などとは違ってまさに「**最も失われてしまいがちな歴史**」でもある。長岡弁をふるさとや自分自身の一部として愛しく感じるのは、そのせいなのかも知れない。

ともあれ、本稿によって改めて長岡弁に親しんでもらい、その中に潜む長岡の人々の「営みの記憶」にも思いを馳せてもらうことで、「**知ることは愛すること**」につながっていくことになればうれしい限りである。

参考文献・資料

本稿は、筆者及び家族・友人・知人らの個人的な経験と記憶に基づいて記述したものであるが、地域方言の言語学的な理解と語彙を中心とした記憶の引き出し・確認・内容の充実等を図るため、下記の辞典、文献、Internet検索による情報等を参照した。

辞 典	「新潟県方言集成」	外山正恭	新潟日報事業社
	「日本国語大辞典」第二版(全13巻)	北原保雄ほか	小学館
	「広辞苑」第四版	新村 出	岩波書店
	「新明解国語辞典」第七版	金田一京助ほか	三省堂
	「類語国語辞典」	大野 晋・浜西正人	角川書店
	「全訳読解古語辞典」	鈴木一雄ほか	三省堂
文 献	「新潟県の方言」	剣持隼一郎	野島出版
	「方言の地図帳」	佐藤亮一	講談社
	「方言の日本地図 ことばの旅」	真田信治	講談社
	「とんと昔があつたけど -越後の昔話- 」	水澤謙一	未来社
	「夢を買う話 -長岡の昔話と民話- 」	水澤謙一	長岡書店の会
Internet	「方言楽の館」	高知大学教育学部日本語研究室	
	「長岡弁大辞典 長岡弁の基礎知識」	TMR (Y.Tamura)	
	「げっぽをねらえ！長岡弁データベース」	NG！	
	「長岡弁でつづる越後の瞽女さん」	山崎 昇	
	「栃尾方言辞典」	高波 保	
	「ウキペディア」 日本語の方言／方言区画論／日本語の方言のアクセント／越後弁／長岡弁		



もっと長岡を知り、もっと愛するための

長岡弁講座